

## 感動感謝

PTA副会長 鈴木 朗

私の子どもは三年生になります。私自身はこれまでほとんど学校へ行ったことがありませんでした。

しかしながら今年度は、役員をやらせて頂いたお陰で学校へ行く機会が増え、行事のお手伝いをする事もできました。

特に葵流祭体育の部では、朝一番での駐車場係を終えると、二年目にして初めて、録画ではないリアルな競技を観ました。『乱？嵐？RUN』では〇・二秒が勝敗を分け、『背渡り』は青組がノーマスで勝利（渡り手は三連覇）、『騎馬戦』や『リレー』も、中学生ともなると迫力があり、観る側も緊張が走ります。普段の生活には無いハラハラドキドキ、そして『感動』を貰い、涙が溢れてきました。そんな子どもたち全員に『ありがとう』を、そして家では見せない成長した姿の我が子に『感動感謝』を伝えたいです。

## ありがとう

PTA副会長 田中 みどり

先日、外出先から帰る車内、天城の山々を見て「やっぱ、落ち着く。」と息子が言いました。引越してしばらく経ったある日、「前の幼稚園に戻り

い。」と園庭の真ん中で泣いていたことを思い出しました。

あれから十年。泣いていた息子はみんなの前で楽器を演奏したり、友達と力を合わせて優勝を目指したり、本当にたくましく成長しました。

天城の自然を学び、天城の人たちに触れ、親友と出合い、人生の中の土台となる大切な時期を天城で過ごすことができたことに感謝します。ありがとうございました。

## 守らない！見守るの！

PTA副会長 小泉 慶子

人生八十年・・・あなたの人生時計は今、何時？

人生時計？娘たちとググってみました。人の一生を二十四時間に置き換えたときの時間のことでした。四十代はお昼下がりの十二〜十五時にあり、一日の中でもオンタイム、充実している時間帯です。

十代の中学生は朝の三〜六時、まだ日も上がっていない時間です。一日の中で言えば、新しい朝の為にしっかりと眠る時です。自分の人生を歩むために力を蓄える時期にいる娘たちに、今は先生や両親、周りの大人に守られながら何となく敷かれたレールの上を走って

きているけれど、自分の人生、自分の道を、勇気を持って選択して行ってほしいです。これからは楽しみながら見守って

いく子育てをしたいです。

## 祖母の教え

総務委員長 浅田 直子

小さい頃から私の祖母は、「初めつから『ムリ』って言うな。」とよく言った。

何もしないうちから『できるか』『できないか』の判断を自分でするな。もし実際にやってみて、本当にどうしてもできなかったときにそう言え。軽々しく口に出してはいけない言葉なのだ。

親もそう。子どもを頭ごなしに叱る前に、よく話を聞き、ほめて、なだめて、家族なら笑って応援してやんなよ。

ばあちゃんは何でもよくお見通しだ。つい一言：余計なことを：言つてたかもな。

ちよつとしたときに、祖母の言葉が浮かぶ。その後「ヤバイ。似てきたかも？」と、一人ニヤつくことが多くなってきた。

## 友達

施設委員長 大川 茂生

「友達」と一言で言っても様々だと思います。学生時代からの友達、社会に出れば会社の友達、性別で分けても色々な友達がいます。

人が生きていく中で、楽しいことや悲しいこと、色々な

ことが起こる訳ですが、自分一人では乗り越えられないことが出てきます。そんな時に、自分と同じ価値観を共有できる「友達」が、支えになってくれると思います。

私は五十三歳になった今でも、毎月中学の同級生五人で一杯会をやっています。会社も全然違いますが、十代の頃と変わらず馬鹿話に花を咲かせたり、四〜五年に一度、旅行に行ったりもしています。

子ども達にも生涯にわたって付き合える大切な「友達」を一人でも多くつくって貰えたらと思います。

## コンクール出場

生活委員長 浅田 ゆり子

七月、TBSこども音楽コンクール地区大会に芸術部が出場しました。例年の部活動と言え、病院等や葵流祭文化の部での演奏が主だったので、コンクールの話を聞いたときは、『経験したことが無い子どもたちが出場して大丈夫？演奏できるの？』と心配でした。

大会は、当日リハーサル無し本番のみ。しかし、子どもたちは思いのほか緊張している様子も見せず、すべてを出し切ろう感を前面に出したステージに見えました。練習してきた以上の演奏ができたのではないのでしょうか。

大会を経験したことで、少しでも自分に自信を持ち、これからの過ごし方についてもらいたいと思います。

## 成長

広報委員長 堀江 章代

この前中学に入学したと思つたのに、あと数ヶ月で卒業です。それほどに中学三年間はあっという間に過ぎていきました。

中一の頃は、ただ中学の生活に慣れるのに必死だった娘も、大きなイベントで活躍する先輩たちを見て、中学生の在り方を学んだように思います。身体はもろろん、心も大人へ変わっていく、意見がぶつかることや気づかされること、少し前の娘には理解できなかったことが今の娘には理解できること。忙しい日々の中、こうした成長をただ何となく感じて過ごしてしまいましたが、これからは温かく見守っていききたいと思います。

